

耳鼻咽喉科・頭頸部外科

1. 目的と特徴

プログラムの目的は、耳、鼻、口腔・咽頭、喉頭、気管食道および頸部領域の疾患に関する臨床診断および治療指針の修得である。耳鼻咽喉科領域には感覚器、呼吸器、消化器など多様な器官が含まれるため、疾患の種類も多岐に渡る。本プログラムでは、これらの疾患全般に対して専門医としての対応が可能ないように、全身管理も含めた幅広い研修を行う。

2. 指導スタッフ

教授・基幹分野長	野中 学
特任教授	中溝宗永
准教授	山村幸江
講師	瀬尾友佳子
准講師	稲井俊太
助教	富田英莉香、野島知人、佐藤えみり、向井昌功、松居可奈子

3. 研修施設

基幹施設：東京女子医科大学病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科

連携施設：東京女子医科大学八千代医療センター、がん・感染症センター都立駒込病院、医療法人社団翠明会山王病院、神尾記念病院、国立国際医療研究センター国府台病院、東北医科薬科大学病院、国際医療福祉大学三田病院、埼玉医科大学病院、上尾中央総合病院

4. 研修カリキュラム

A：一般目標

外来診療において、耳鼻咽喉科領域の患者診療を適切に行える能力を修得する。入院診療において、主治医として耳鼻咽喉科領域の基本的臨床能力を持ち、全身、局所管理を適切に実施できる。

B：行動目標

- 1) 問診：耳鼻咽喉科診療に必要な症候学の知識に精通し、かつ患者心理を理解して適切な問診ができる。
- 2) 検査：耳鼻咽喉科領域の基本的な検査の原理と機器、方法を理解し、必要にして十分な検査を行える。
- 3) 診断：耳鼻咽喉科領域の正常および病的所見を理解し、問診、検査、所見から診断ならびに鑑別診断を行える。
- 4) 治療：疾患の種類と程度を把握し、適切な専門的治療を行える。
- 5) 手術：耳鼻咽喉科・頭頸部外科領域の基本的手術の意義、原理を理解し、適応を決め、手術手技および術前後の管理ができる。より難易度の高い手術についての助手と術前・術後管理ができる。耳・鼻・口腔咽頭・喉頭の炎症、良性腫瘍手術から、頭頸部癌の手術まで行う。
- 6) 救急、偶発症：救急疾患ならびに外来診療に伴う偶発症に対する診断能力、処理能力を持つ。
- 7) リハビリテーション：音声治療、補聴器フィッティング等の耳鼻咽喉科領域に関

連するリハビリテーションについて、医療としての方針を決定し、適切な助言ができる。またメディカルスタッフの指導ができる。

- 8) 全身管理：合併症に対して適切な全身、局部管理を行い、また他科との連携ができる。

C：年次別研修スケジュールと研修内容概略

以下は基本的なスケジュールであり、変更となることがある。

	研修場所	内 容
1、2年次	外来	問診、診療、検査、外来小手術
	病棟	術前術後管理、ターミナル・疼痛管理、手術（良性疾患）
3年次	研修施設	手術（良・悪性腫瘍）、外来診療
4年次	外来・病棟	専門外来選択、耳鼻咽喉科専門医試験受験
5年次	外来・病棟	外来チーフレジデント、研究チーム選択

D：週間予定

以下は基本的なスケジュールであり、変更となることがある。

手術日：火・水・木曜日

医局会：月・木曜日 午後4：30から

術前症例検討会：木曜日 午前8：00から

病棟カンファレンス：金曜日 午後2：00から

放射線腫瘍カンファレンス：隔週金曜日 午後3：30から

E：評価

外来診療については外来医長から逐次形成的評価を受ける。また、リスクマネージャから安全管理の評価を受ける。手術ならびに入院担当症例の評価については、病棟医長から耳鼻咽喉科学会認定専門医の評価シートに基づいた評価を受ける。また、学会発表ならびに論文の業績も随時評価する。

5. 後期臨床研修修了後の進路

後期臨床研修修了後、東京女子医科大学耳鼻咽喉科に就職を希望するものは、耳鼻咽喉科責任者と相談し、助手もしくは助教として採用も可能。

6. 学位

研究論文が掲載された後、当科責任者との協議のもと、医学博士の学位の申請が行なわれる。臨床大学院生は博士課程の修了時に医学博士の学位が授与される。

7. 専門医

本プログラムにおける4年次に日本耳鼻咽喉科学会認定専門医試験の受験資格を取得できる。

8. 問い合わせ先

〒162-8666 東京都新宿区河田町8-1 東京女子医科大学病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科

医局長：稲井 俊太

TEL：03-3353-8111（内線：28249）、FAX：03-5269-7617

E-mail：laryngo.bq@twmu.ac.jp

URL：[東京女子医科大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 \(twmu.ac.jp\)](http://twmu.ac.jp)